

2025 年 4 月 11 日

## リコー、企業経営者のデジタルクローンを提供開始 ～企業理念の浸透や社員教育をリコーの AI エージェントで支援～

株式会社リコー(社長執行役員:大山 晃、以下 リコー)は、企業経営者本人をモデリングして作成したデジタルクローン\*の提供を開始しました。今回、株式会社久永(代表取締役社長:久永 修平、以下 久永)の久永社長をモデルとしたデジタルクローンの 3D モデルを作成しました。第一弾として、3 月 21 日に行われた創立 105 周年記念イベントで、デジタルクローンが久永社長の声で、今後の抱負を来場者に語りかけました。将来的には、3D モデルと社長の考え方を学習させた AI を連携させ、社長の代わりとして、社員や顧客と対話できるデジタルクローン型 AI エージェントを開発する予定です。

\*デジタルクローン:はたらく人の分身として自律的に仕事を進めるデジタルクローンは、企業の人手不足の解消や人材活用、コミュニケーション強化やエンゲージメント向上に寄与するとして、開発と活用が期待されています。企業経営者のデジタルクローンは、経営者の考え方や経営理念を学習し、容姿も似せた AI 搭載の 3D モデルです。経営者の分身として、経営者に代わり社員や顧客と身近で対話しコミュニケーションや社員教育などを強化する役割を期待されています。

久永は、1919 年創業の「測る・量る・計る・図る」を主軸にお客様と共にビジネスを創造し、鹿児島県を中心に宮崎、熊本、関東と広域にわたり「地域のパートナー企業」として独自の DX ソリューションを提供しています。企業の規模が拡大するなか、経営理念の浸透や経営層と社員のコミュニケーション強化が課題となっていました。また、事業形態も、モノからコト、コトからコンサルティングへ大きく変化する中、お客様へ久永の強みである「建設 DX 事業」「オフィス DX 事業」「ビジネス空間事業」を融合してご提供するビジネスの認知度向上に取り組んでいます。今回作成したデジタルクローンは、社員とのコミュニケーションツールとして活用していく予定です。また、105 周年の感謝の集いにおいて、幅広い事業での「お役立ち」の認知度の向上と、これからの未来のビジネスに欠かせない AI の活用について、久永の更なるチャレンジとして来場者に紹介されました。

リコーは、このような先進的な取り組みに挑戦する企業姿勢を、トップ自ら率先して示したいという久永社長の想いを受けて、久永社長のデジタルクローンを製作しました。久永社長の全身を 360° の方向から撮影し、AI を活用して 200 枚以上の画像データから高精細な 3D モデルを作成しました。さらに、動画の撮影は、リコーが開発・提供する次世代会議空間「RICOH PRISM」で行いました。モーションキャプチャーされたモデリングデータを「RICOH PRISM」内で投影することで、没入感のある動画撮影も実現しました。

リコーは今後も、AI やデータなどのデジタルの力で生産性を向上するとともに、創造的なコラボレーションやイノベーションの創出、創造力の発揮を支援します。

株式会社リコー <https://jp.ricoh.com/>

報道関係のお問い合わせ先 広報室 TEL : 050-3814-2806 (直通) E-mail : [koho@ricoh.co.jp](mailto:koho@ricoh.co.jp)

## ■ デジタルクローンの活用例

### 1 プロモーション

- ・リクルート活動用の動画
- ・Web サイト、SNS サイトへの動画掲載
- ・応接ルームへの常設展示による来場者へのおもてなし

### 2 社員への教育ツール/アイデア活性化ツール

- ・社員からの業務質問に対して、企業理念や久永社長の考え方を通した回答例の提示

### 3 社員とのコミュニケーションツール

- ・簡易的な相談ツールとして久永社長への親近感向上、エンゲージメント向上に貢献

### 4 受付・案内など比較的簡易な業務



リコーが提供した、株式会社久永の久永社長のデジタルクローンの 3D モデル

<https://youtu.be/2BpPSxdt1o8>

## ■ リコーの AI 開発について

リコーは、1990 年代に AI 開発を開始し、2015 年からは画像認識技術を活かした深層学習 AI の開発を進め、外観検査や振動モニタリングなどへの適用を行ってきました。2020 年からは自然言語処理技術を

活用し、オフィス内の文書やコールセンターに寄せられた顧客の声(VOC)などを分析して業務効率化や顧客対応に活かす「仕事の AI」の提供を開始しました。

さらに、2022 年からはいち早く、大規模言語モデル(LLM)の研究・開発に着目し、2023 年 3 月にはリコー独自の LLM を発表。その後も、700 億パラメータの大規模ながらオンプレミスでも導入可能な LLM(日英中 3 言語に対応)を開発するなど、お客様のニーズに応じて提供可能なさまざまな AI の基盤開発を行っています。また、画像認識や、自然言語処理に加え、音声認識 AI の研究開発も推進し、音声対話機能を備えた AI エージェントの提供も開始しています。

## ■関連リンク

株式会社久永

<https://kk-hisanaga.co.jp/>

RICOH BUSINESS INNOVATION LOUNGE TOKYO:「AI エージェントを使い倒す未来」

<https://jp.ricoh.com/about/ricoh-bil/topics/202501-01>

---

※社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

## | リコーグループについて |

リコーグループは、お客様のDXを支援し、そのビジネスを成功に導くデジタルサービス、印刷および画像ソリューションなどを世界約200の国と地域で提供しています(2024年3月期グループ連結売上高2兆3,489億円)。

”はたらく”に歓びを 創業以来85年以上にわたり、お客様の“はたらく”に寄り添ってきた私たちは、これからもリーディングカンパニーとして、“はたらく”の未来を想像し、ワークプレイスの変革を通じて、人ならではの創造力の発揮を支え、さらには持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

詳しい情報は、こちらをご覧ください。

<https://jp.ricoh.com/>